



学校だより

いちいの木

学校教育目標

「ふるさと 富士山に 学ぶ子」

重点目標 「伸びを認め合う」

小山町立須走小学校

令和元年12月号

気づき 考え 実行する 須走っ子へ

校長 青木元広

先日、ニュースで悲しい知らせが報じられました。それは、アフガニスタンで人道的な支援をしていた医師の中村哲さんが襲撃され亡くなったことです。

中村さんは、内戦により負傷した人々を救うために医師としてアフガニスタンに渡り、治療活動をしていました。が、人々の飢えと困窮を目の当たりにし、「医療だけでは人の命は救えない。」と考えました。そして、水を得るための用水路を作り、やせた土壌を改良することで農業を振興し、食物を得て人々を救おうと考えました。自らは、専門外の土木技術を学び、先頭に立って重労働をしたり、重機を操作したりしながら、井戸や用水路を作りました。危険を伴う困難な国であることは承知の上で、そのような行動をとり続けた中村さんは、本当に勇気のある偉大な方でした。

彼のとった行動は、まさに現代版、二宮金次郎や伊奈半左衛門ではないでしょうか。そして、青少年赤十字に加盟している本校にとっては、赤十字の父と言われている、「アンリーデユナン」とも重なると思えました。アンリーデユナンは、戦地において傷ついた兵士は、敵も味方も関係なく救ったと言われる、人間愛に溢れた人でした。

須走小学校の加盟する青少年赤十字の目標は

「気づき、考え、実行する」です。

須走小学校では、いつもこの言葉を心に抱き、人のために自ら進んで行動できる子どもたちを目指しています。

幸いにも須走小学校にはたくさんのお優しい子どもたちがいます。困っている友達を見付けると、寄り添って励ましの言葉を掛ける子をよく見ます。＜S活動(ボランティアアサービス)で清掃活

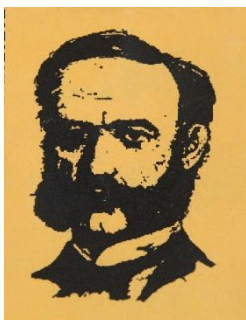
動に汗を流してくれています。

そんな子どもたちに、これから一層、**自分で**気づき、考え、そして実行できる力を育んで行きたいと考えています。私たち大人もそうだと思えますが、気づき、考えるところまではできて、**実行する**というところでは足踏みになってしまいうことが多くないでしょうか。

中村哲さんは、「百人の医師より、一本の用水路」と訴え、ありとあらゆる手段を実行して、今や六十万人の命を救ったと言われます。

これから冬休みを迎え、各家庭で過ごすことが多くなりますが、ぜひ、子どもたちに**自分で考え、実行する**機会を与えてください。そして実行でき

た時には大いに褒めて実行力を認めてあげてください。



赤十字の父
アンリーデユナン

写真で見る11・12月

★11月14日「4年生 ポッチャ体験」



★11月21日「3・4組 なかよし遠足」



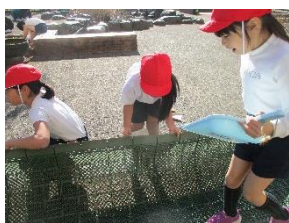
★11月25日「5・6年生 金管紹介・演奏（引き継ぎに向けて）」



★11月27日「2年生が1年生に遊びを教えました」



★12月4日「縦割り班そうじ」



毎月第2火曜日に読書DAYを設けるようになりました。宿題は読書だけにし、読書にじっくり取り組む日です。

御家庭での子どもさんの様子は、いかがでしょうか。たくさんの本に親しみ、心にたくさんの種をまいてほしいと思います。以前にも記しましたが、読み聞かせもお勧めです。

